

## 八甲田山の火山活動解説資料（令和2年10月）

仙台管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図1～5）

監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。20日に青森県の協力により実施した上空からの観測では、噴気や地表面の異常は認められませんでした。

#### ・地震や微動の発生状況（図6）

火山性地震は少ない状態で経過しました。  
火山性微動は観測されませんでした。

#### ・地殻変動の状況（図7、図9）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

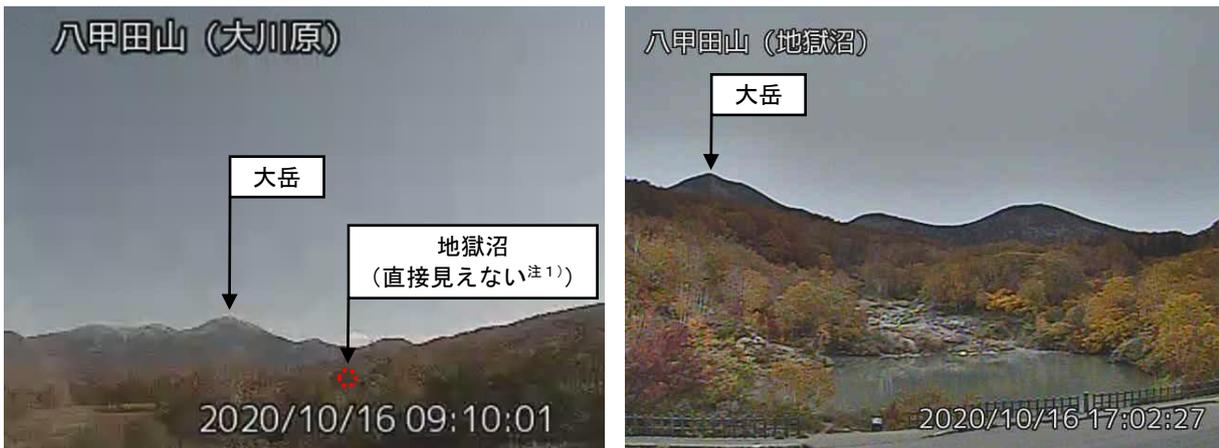


図1 八甲田山 山頂部及び地獄沼周辺の状況（10月16日）

- ・左図：大川原監視カメラ（大岳の西南西約6km）の映像です。
- ・右図：地獄沼監視カメラ（地獄沼の西約100m）の映像です。
- ・注1）地獄沼から噴気が噴出した場合、大川原では高さ100m以上のときに観測されます。赤破線が地獄沼の位置を示します。

噴気は認められませんでした。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和2年11月分）は令和2年12月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び青森県のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

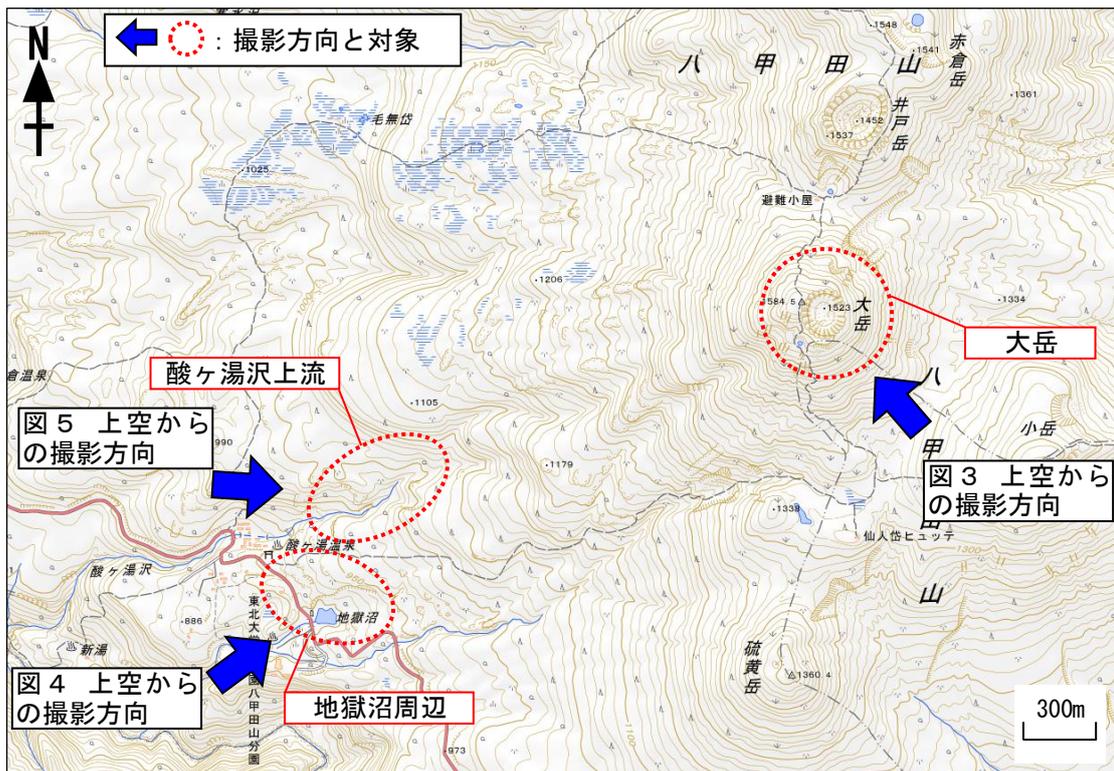


図2 八甲田山 写真と地表面温度分布の撮影対象と撮影方向

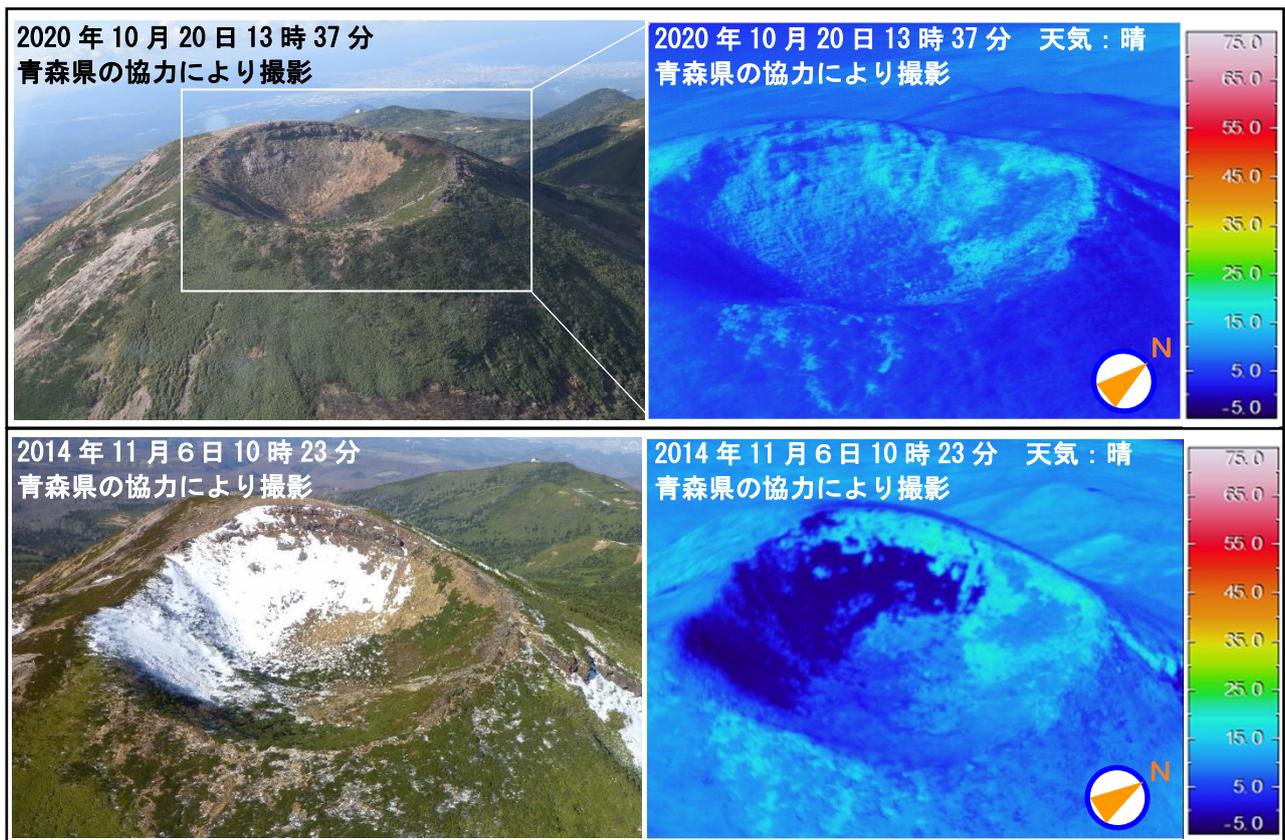


図3 八甲田山 上空から撮影した大岳の状況と地表面温度分布

- ・大岳を南東方向から撮影した画像です。
- ・日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。

大岳に噴気や地熱域は認められませんでした。2014年の観測と比べて特段の変化は認められませんでした。



図4 八甲田山 上空から撮影した地獄沼周辺の状況（左：2020年、右：2016年）

・地獄沼を南西方向から撮影した画像です。

地獄沼やその北西の地熱域に噴気や地表面の異常は認められませんでした。2016年の観測と比べて特段の変化は認められませんでした。



図5 八甲田山 上空から撮影した酸ヶ湯沢上流の状況（左：2020年、右：2016年）

- ・酸ヶ湯沢上流を西方向から撮影した画像です。
- ・酸ヶ湯沢上流では、過去の現地調査で高濃度の火山ガスが観測されています。

酸ヶ湯沢上流に噴気や地表面の異常は認められませんでした。

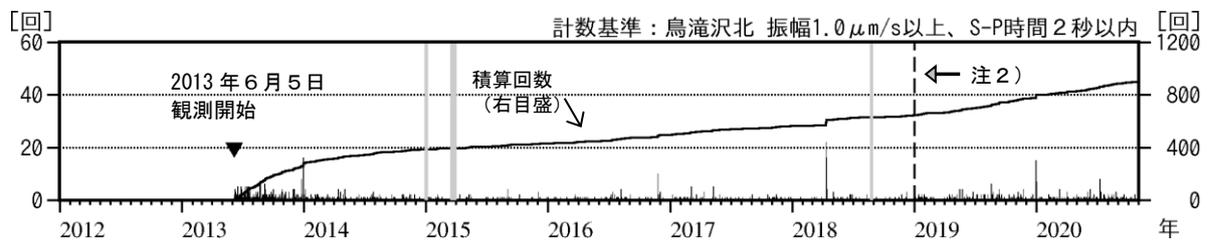


図6 八甲田山 日別地震回数（2013年6月～2020年10月）

- ・計数基準の変遷は次のとおりです。変更に伴い検知力が向上しています。  
 観測開始 2013年6月5日～ 青森県沖揚平観測点 振幅1.0  $\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間2秒以内  
 注2) 2019年1月1日～ 鳥滝沢北観測点 振幅1.0  $\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間2秒以内
- ・灰色部分は欠測を表しています。

火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

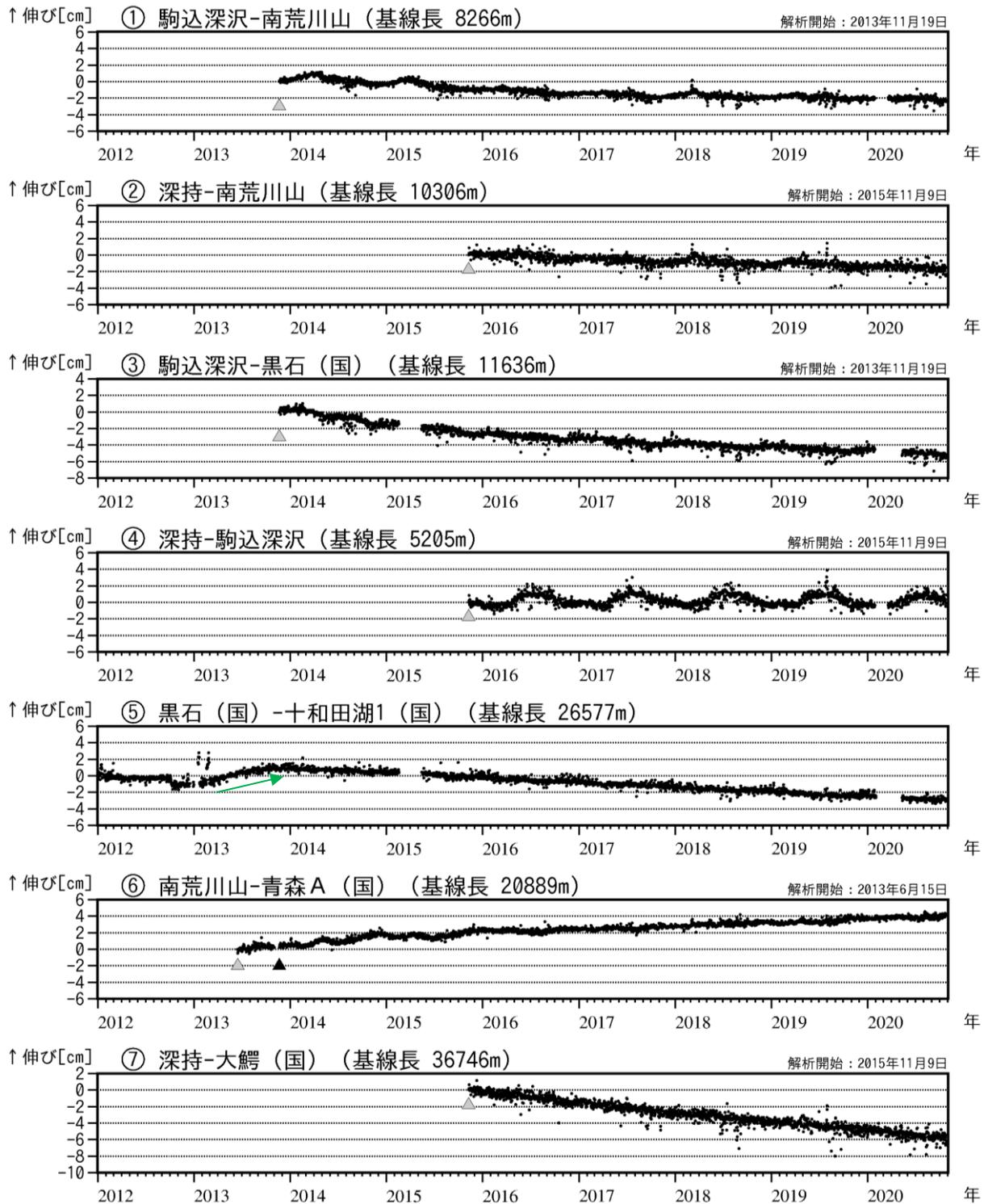


図7 八甲田山 GNSS 基線長変化図（2012年1月～2020年10月）

- ・①～⑦は図9のGNSS基線①～⑦に対応しています。
- ・空白部分は欠測を示します。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示します。
- ▲：2013年11月に南荒川山観測点の機器更新及び移設、解析方法の変更を行いました。
- ▲：解析開始を示します。

2013年の活動時に、山体のわずかな膨張を示す変化（緑矢印）が観測されていますが、現在火山活動によると考えられる変化は認められていません。

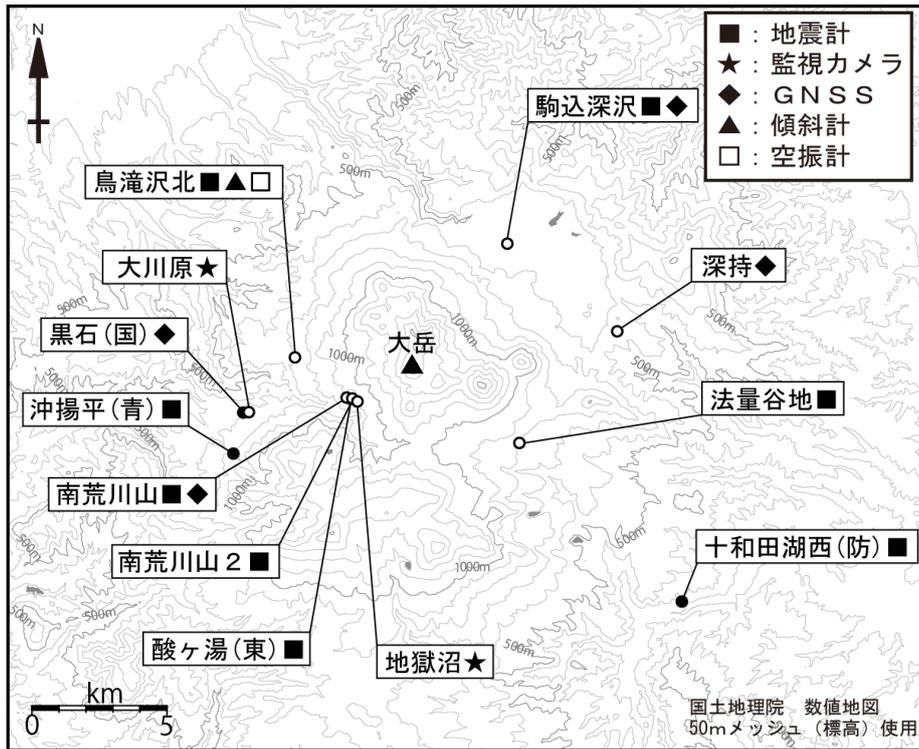


図8 八甲田山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所  
（青）：青森県

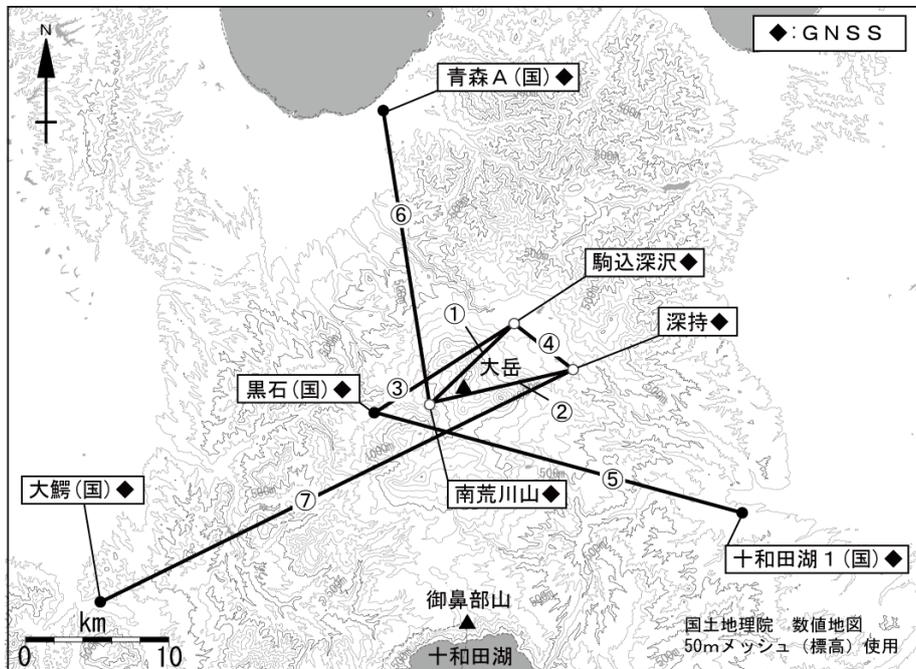


図9 八甲田山 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院